

へき地保健医療対策検討会	資料-3
第1回(H17. 1. 24)	

## 無医地区調査表（案）



無医地区等調査 調査票 (平成16年12月末日現在)

整理記号・番号  都道府県名

二次医療圏名  符号

所轄保健所名  符号

市町村名  符号

フリガナ		(カタカナで記入)									
(1) 無医地区名											
(2) メッシュコード		<input type="text"/>									
(3) 調査対象となる事情		a 無医地区の定義に該当する b 無医地区に準じる定義に該当する ( )									
(4) 法律適用状況		a 過疎 離島 b 山村 c 豪雪 d 特豪 e 離島 f 沖縄 g 奄美 h 適用外									
(5) 総世帯数		世帯		(6) 高齢者世帯数		世帯					
(7) 電話保有世帯数		世帯		(8) 自動車(船)保有世帯数		世帯					
(9) 地区内人口等の状況 ( )内は、 11年度調査 時の人口を記入		1 人口 (平成16年 月 日現在)					2 ひとり暮らし者数	3 就労者数			
		区分	総数	0~14才	15~64才	65~69才	70才以上	(再掲)	(再掲)		
		男	人	人	人	人	人	人	人		
		女	人	人	人	人	人	人	人		
		計	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人	( ) 人			
(10) 国保加入者の状況		1 加入者数(16年10月現在)		人		(11) 地区内の中心的場所					
		2 受診件数(16年11月)		件		への自動車の乗入					
(12) 救急患者の 搬送方法等		1 搬送方法		a 救急車 b その他 ( )							
		2 最寄病院に收容されるまでの時間		分							
		3 最寄診療所に收容されるまでの時間		分							
		4 搬送が不可能になる時間及び日数		時間 日							
(13) 無医地区となっている主な理由 (人口500人以上の無医地区)		a 医師の確保ができない b 財政上医療機関の設置不能 c 巡回診療で十分 d 患者輸送車で十分 e 最寄医療機関があるので不必要 f その他 ( )									
(14) 平成15年度巡回 診療、健康診断 等の実施状況		1 巡回診療		実施主体 a 都道府県 b 市町村 c へき地医療拠点病院 d 最寄病院 e その他 ( )							
		実施回数		10年度 回数		受診者延数		10年度 人			
		減の理由		a 無医地区の対象人数の減 b 巡回診療を行う体制の減 c その他 ( )							
		眼科、耳鼻いんこう科 の巡回診療体制の有無		眼科		a 有 b 無		耳鼻		a 有 b 無	
		2 患者輸送		運行日数		週 日		1日当たり往復回数		往復	
				1日平均利用者数		人		料金徴収		a 有 b 無	
3 健康診断 (老健法一般)		実施機関		a 都道府県 b 市町村 c 検診団体 d その他 ( )							
		実施回数		回		受診者延数		人			



無医地区名

整理記号・番号

--	--	--	--

	4 健康診断 (上記3以外)	実施機関	a 都道府県 b 市町村 c 検診団体 d その他 ( )		
		実施回数	回	受診者延数	人
	5 健康教育	実施機関	a 都道府県 b 市町村 c その他 ( )		
		実施回数	回		
	6 健康相談	実施機関	a 都道府県 b 市町村 c その他 ( )		
		実施回数	回	相談者延数	人
(15)最 寄 病 院	1 名 称	<input type="text"/>			
	2 所 在 地	<input type="text"/>		3 病床数	床
	4 設置主体	a 都道府県 b 市町村 c 公的四団体 d 医療法人 e 個人 f その他 ( )			
	5 医師数	常勤 人	6 自動車(船)利用の 非常勤 人	場合の距離・時間	km 分
	7 患者輸送事業	a 有	一日 片道	複 分	b 無
	8 診療体制	休日診療体制	a 毎休日 b 輪番制に参加 c 未実施 d その他 ( )		
		夜間診療体制	a 毎日 b 輪番制に参加 c 未実施 d その他 ( )		
	9 実施診療科	a 内科 b 小児科 c 外科 d 産科 e 眼科 f 耳鼻咽喉科 g その他 ( )			
	10 支援の可能性	a 巡回診療 b 診療所への代診医派遣 c 画像診断 d その他 ( )			
	11 往診回数	回(16年12月分)			
	(16)最 寄 診 療 所	1 名 称	<input type="text"/>		
2 所 在 地		<input type="text"/>		3 病床数	床
4 設置主体		a 都道府県 b 市町村 c 公的四団体 d 医療法人 e 個人 f その他 ( )			
5 一週当り診療日数		日 ( 曜日)			
6 診療時間		平日	:	~	:
		土曜日	:	~	:
		日祭日	:	~	:
7 医師数等		常勤 人、非常勤 人、平均年齢 歳			
8 自動車(船)利用の場合の距離・時間		km 分			
9 患者輸送事業		a 有	一日 片道	複 分	b 無
10 支援病院からの体制		代診医の派遣体制		a 有	b 無
11 往 診 回 数	回(16年12月分)				



無医地区名

整理記号・番号

(17)最寄医療機関まで公共交通機関を利用する場合の時間等	最寄医療機関の種別	区分	距離	時間	往復便数	
		徒歩	km	分		
	a 病院	バス	km	分	一日	往復
		鉄道	km	分	一日	往復
		船	km	分	一日	往復
		その他				
	b 診療所	( )	km	分	一日	往復
		計	km	分		
			区分	豪雪地帯等の場合の冬期利用状況		
			バス	a 可 b 不可	( 月 旬 ~ 月 旬)	
		鉄道	a 可 b 不可	( 月 旬 ~ 月 旬)		
		船	a 可 b 不可	( 月 旬 ~ 月 旬)		
		その他	a 可 b 不可	( 月 旬 ~ 月 旬)		
(18)へき地医療拠点病院	a 有	1 病院名				
		2 病院までの距離等				
	b 無	a 公共交通機関利用の場合	km	分		
		b 自動車(船)利用の場合	km	分		
(19)最寄総合診療病院	1 病院名					
	2 病院までの距離等	a 公共交通機関利用の場合	km	分		
		b 自動車(船)利用の場合	km	分		
(20)へき地保健指導所	a 有	1 保健師	a 常勤	人	b 非常勤	人
		2 訪問指導延件数(15年度)	件			
	b 無	3 訪問指導のための交通手段	a 徒歩	b 自動車	c その他 ( )	
(21)保健師の活動体制	a 過疎四法による保健師    b 市町村保健師    c 保健所保健師					
	d 市町村保健師と保健所保健師と共同    e その他 ( )					
	訪問指導延件数(15年度)	件	再掲	寝たきり	看護	
(22)在宅医療	訪問看護	実施主体	a 公立・公的	b 医療法人	c 社福法人	
		対象人員	d その他 ( )			
		延件数(16年12月分)	件			
(23)老人関連施設	a デイサービスセンター    b 養護老人ホーム    c 特別養護老人ホーム					
	d その他 ( )					



第2表

No. \_\_\_\_\_

### 無医地区等増減整理表

都道府県名	前回（11年6月）調査		今回（16年12月末現在）調査		無医地区等増減理由
	無医地区名	人口	整理記号・番号	無医地区名	
二次医療圏名					
市町村名					
所轄保健所名		人			人
<p>無医地区等の増減理由欄の記入については該当する項目を下記より選ぶこと a 診療所ができた    b 人口が50人以下になった    c 医療機関への交通の便が良くなった d 医療機関がなくなった    e 医療機関への交通の便が悪くなった    f その他（    ）</p>					



第3表

市町村名

[Blank box for municipality name]

へき地保健医療対策に関する意見・要望等

問1 へき地医療の充実のため画像転送などのニューメディアの活用を考えていますか。

- a はい それはどのようなものですか。
  - 1 へき地の診療所等と病院を結ぶ画像転送システム
  - 2 テレビ電話や血圧モニター等での在宅医療の支援
  - 3 インターネットの活用
  - 4 その他 ( )

- b いいえ ニューメディア活用の障害は何だと考えられますか。
  - 1 現行の技術は医療用には不十分
  - 2 機械の取り扱いが難しい
  - 3 一部の熱心な医師以外は活用しないと思う
  - 4 経費がかかりすぎる
  - 5 その他 ( )

問2 へき地の救急医療の充実のため行っているあるいは行うこととしていることがありますか。

- 1 救急ヘリコプターの活用
- 2 道路網の整備
- 3 ドクターカーの推進
- 4 救急救命士の配置
- 5 その他 ( )

問3 へき地の医師確保のために行っている事業をあげて下さい。

- 1 自治医科大出身者の活用
- 2 自治医科大以外の大学出身者の活用
- 3 代診システムの整備
- 4 へき地診療医師の生活に対する支援
- 5 へき地診療医師の家族に対する支援
- 6 その他 ( )

問4 市町村による赤字補てんを行ってでも存続させたい民間診療所がありますか。

- a ある ( カ所) ・当該診療所は、在宅医療を実施していますか。 1 はい 2 いいえ
- b ない

問5 へき地保健医療の充実のため、独自で行っている事業があればあげて下さい。(要すれば様紙を付けて下さい)

問6 へき地保健医療対策に関するご意見をお聞かせ下さい。(要すれば様紙を付けて下さい)

※ 該当箇所を○で囲んで下さい



第4表

都道府県名

へき地保健医療対策に関する意見・要望等

問1 へき地保健医療対策の充実のため、へき地保健医療対策協議会を設置していますか。	
a はい	年間何回開催されていますか ( 回 )
-----	
b いいえ	協議会を設置しない理由は何ですか。 1 協議会で議論してもへき地保健医療は充実しないと思う 2 協議会を設置するよりも効果的な対策がある 3 協議会を設置する経費がない 4 その他 ( )
問2 へき地医療の充実のため画像転送などのニューメディアの活用を考えていますか。	
a はい	それはどのようなものですか。 1 へき地の診療所等と病院を結ぶ画像転送システム 2 テレビ電話や血圧モニター等での在宅医療の支援 3 インターネットの活用 4 その他 ( )
-----	
b いいえ	ニューメディア活用の障害は何だと考えられますか。 1 現行の技術は医療用には不十分 2 機械の取り扱いが難しい 3 一部の熱心な医師以外は活用しないと思う 4 経費がかかりすぎる 5 その他 ( )
問3 へき地の救急医療の充実のため行っているあるいは行うこととしていることがありますか。	
1 救急ヘリコプターの活用 2 道路網の整備 3 ドクターカーの推進 4 救急救命士の配置 5 その他 ( )	
問3 へき地の医師確保のために行っている事業をあげて下さい。	
1 自治医科大出身者の活用 2 自治医科大以外の大学出身者の活用 3 代診システムの整備 4 へき地診療医師の生活に対する支援 5 へき地診療医師の家族に対する支援 6 その他 ( )	
問5 へき地保健医療の充実のため、独自で行っている事業があればあげて下さい。(要すれば縦紙を付けて下さい)	
問6 へき地保健医療対策に関するご意見をお聞かせ下さい。(要すれば縦紙を付けて下さい)	

※ 該当箇所を○で囲んで下さい